

# 景気動向調査報告書

令和8年4月末調査

この調査は、岡谷市の基幹産業である製造6業種（精密、機械、電気、計量、表面処理、  
鋳造）の企業の皆様のご協力により、今期（令和8年4月末）を基準とした業況等について  
まとめた報告書です。

岡谷商工会議所・岡谷市産業振興部工業振興課



- 調査実施期間

前年同期	前 期	今 期	来 期
令和7年4月	令和7年10月	令和8年4月	令和8年10月

- 調査業種及び調査企業

調査業種	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造	合計
調査企業数	40	27	11	7	12	3	100
回答企業数	25	23	11	6	10	3	78

- 従業員数

人数	0～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～99人	100人～	合計
企業数	20社	15社	6社	8社	7社	12社	10社	78社

## 令和8年4月景気動向 調査結果のポイント

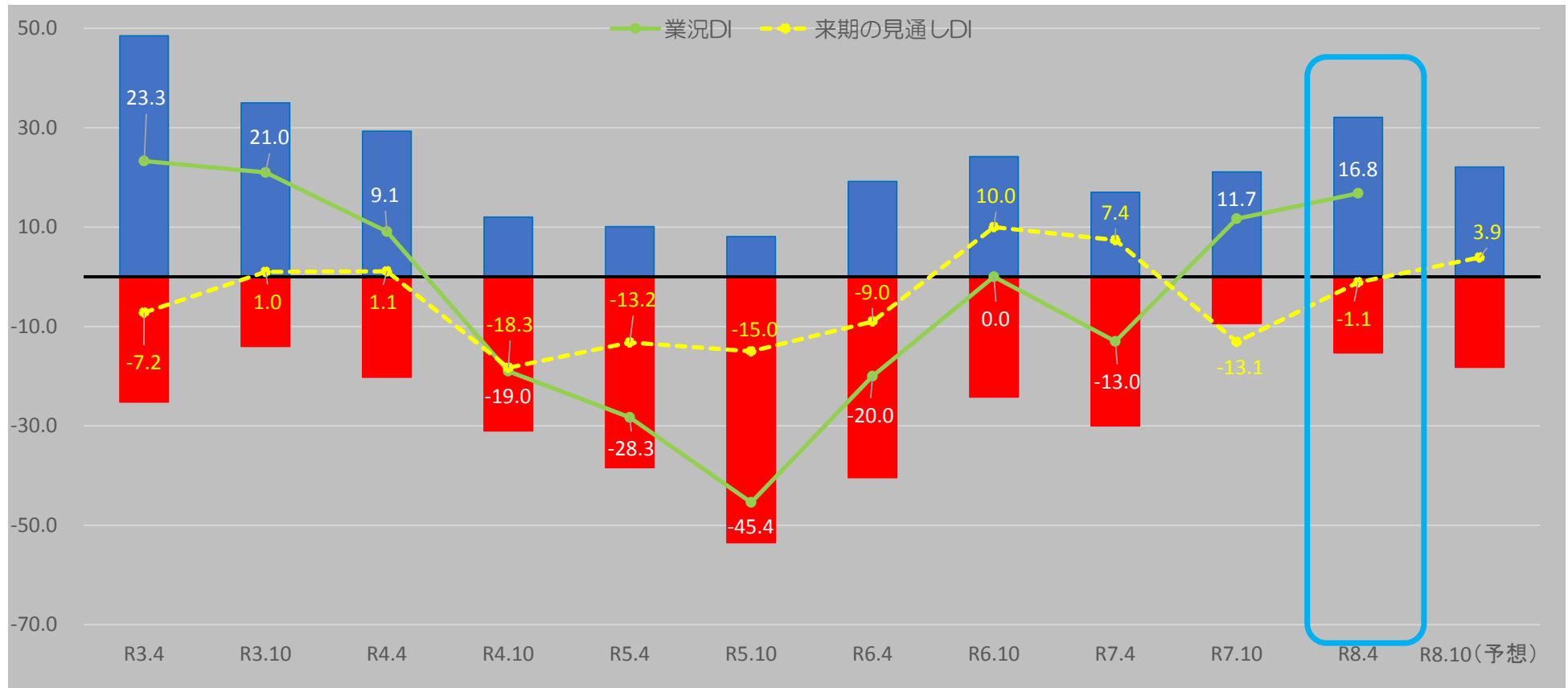
- 今期の本市製造業の業況DIは、前期に続き、取引先の生産回復を主因として業況が好転する企業が増加し、プラスの水準を維持しています。半導体などの電子機器分野や航空・医療分野においては、好調を維持する企業が多い一方、自動車関連や機械装置関連では引き続き低調な状況が伺えるとともに、原材料仕入価格高騰の影響(下段で解説)が全体に及んでいる状況となっています。
- 来期の見通しは、3期ぶりにプラス水準に転じました。原材料仕入価格の高止まりが続くとの見通しの一方、取引先の生産回復および新規取引先の開拓や生産性向上への対策などを背景に改善傾向を示しています。
- 中東情勢の影響については、「原材料価格の高騰」で約8割、「原材料の調達」で約6割の企業に影響が及んでいます。また、供給調整や調達が滞ることなど先行きへの不透明感やリスクに対する強い警戒感も伺えます。

※棒グラフのプラス側は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合、マイナス側は減少(減少、低下、窮屈)の企業の割合です。折れ線グラフ(DI)は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合から減少(減少、低下、窮屈)の企業の割合を引いた差です。折れ線グラフ(来期の見通し)は調査時の来期(6ヵ月後)のDI値です。

(原材料仕入価格については、棒グラフのプラス側は減少(価格上昇)の企業割合、マイナス側は好転(価格下落)の企業の割合です。

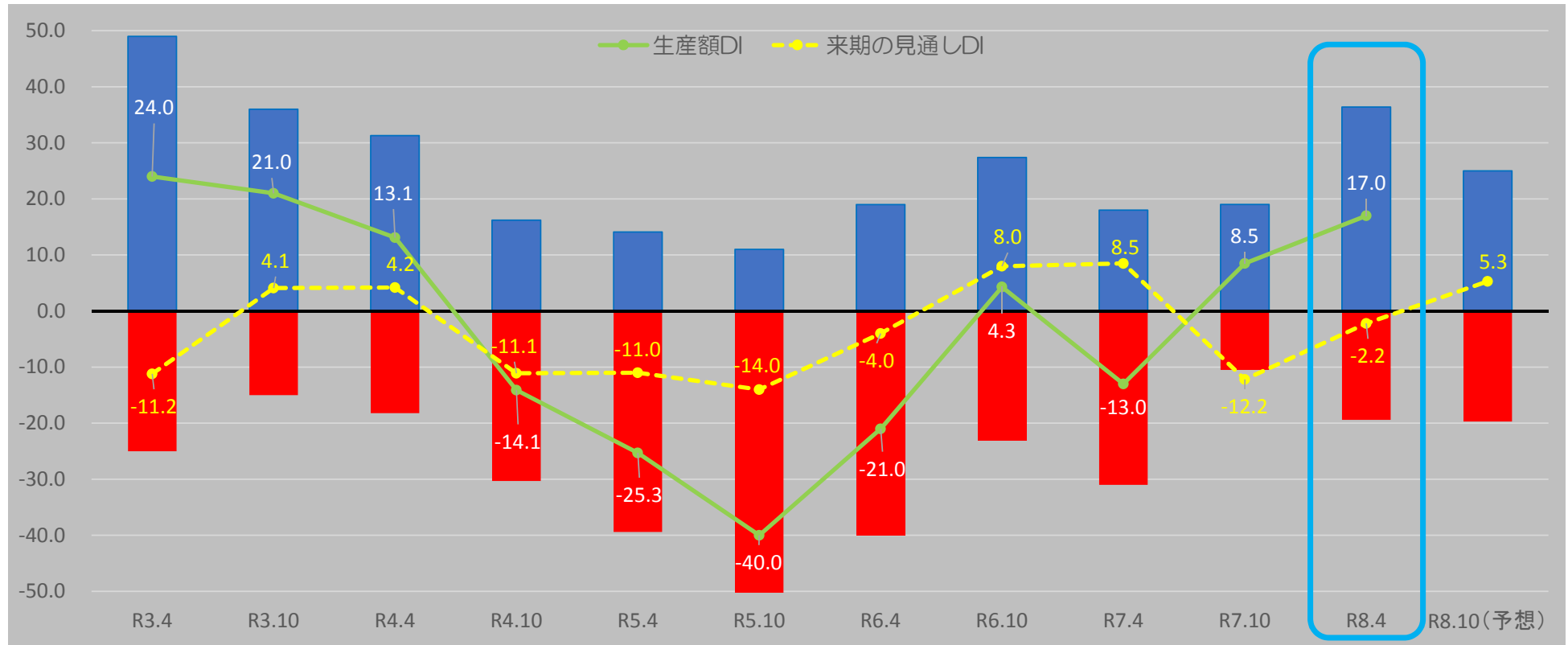
折れ線グラフ(DI)は減少(価格上昇)の企業の割合から好転(価格下落)の企業の割合を引いた差です。)

### ①業況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



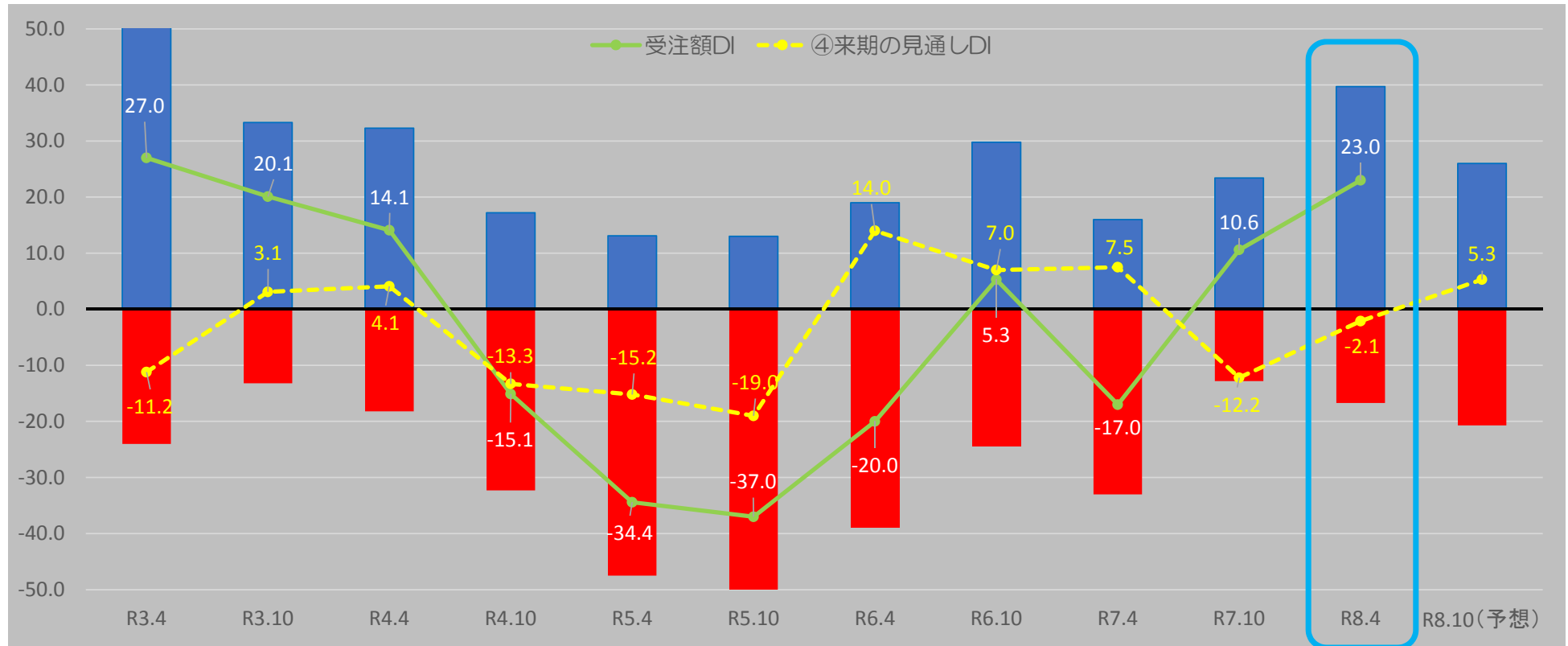
前期と比較したDIは16.8ポイントとなり、前期の11.7ポイントより5.1ポイント改善しました。  
また、来期の見通しDIは3.9ポイントとなり、前期の▲1.1ポイントより5.0ポイント改善しました。

## ②生産額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



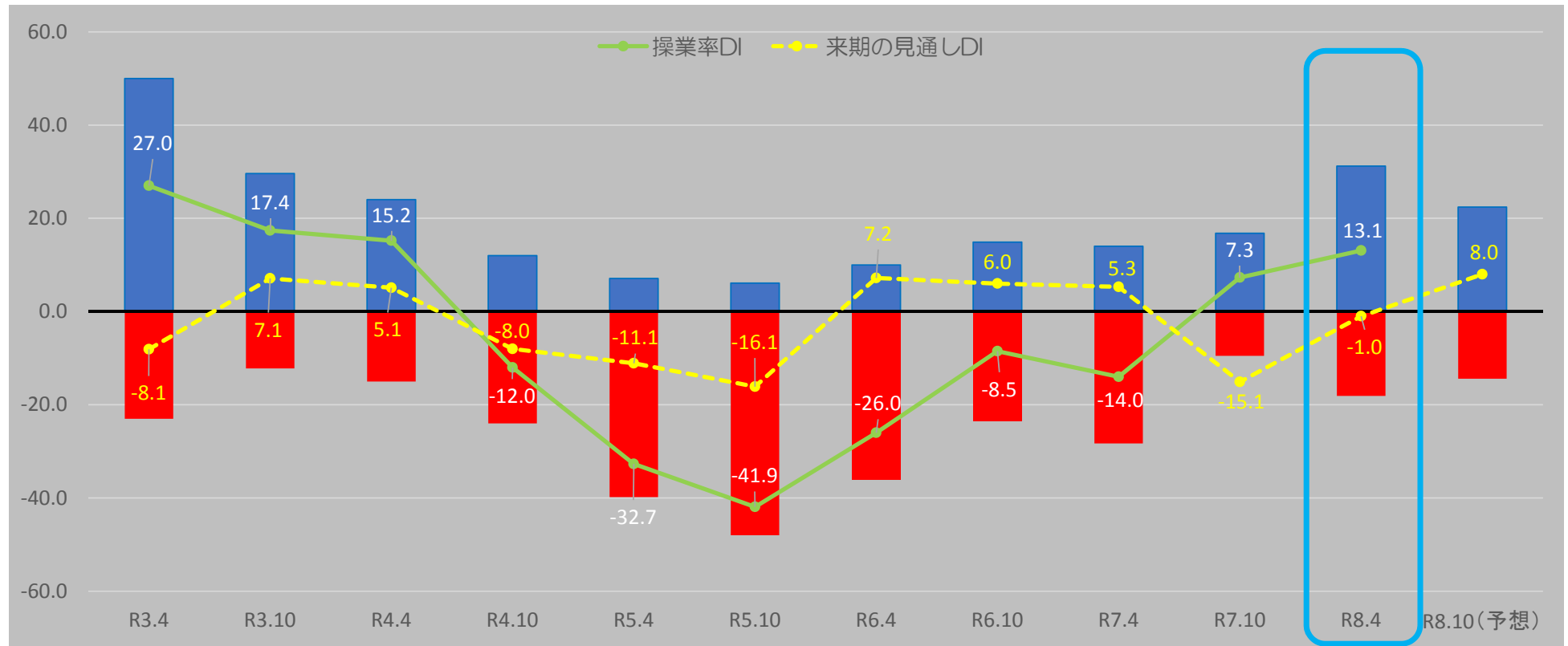
前期と比較したDIは前期の8.5ポイントより8.5ポイント改善し、17.0ポイントとなりました。  
 また、来期の見通しDIは前期の▲2.2ポイントより7.5ポイント改善し、5.3ポイントとなりました。

### ③受注額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



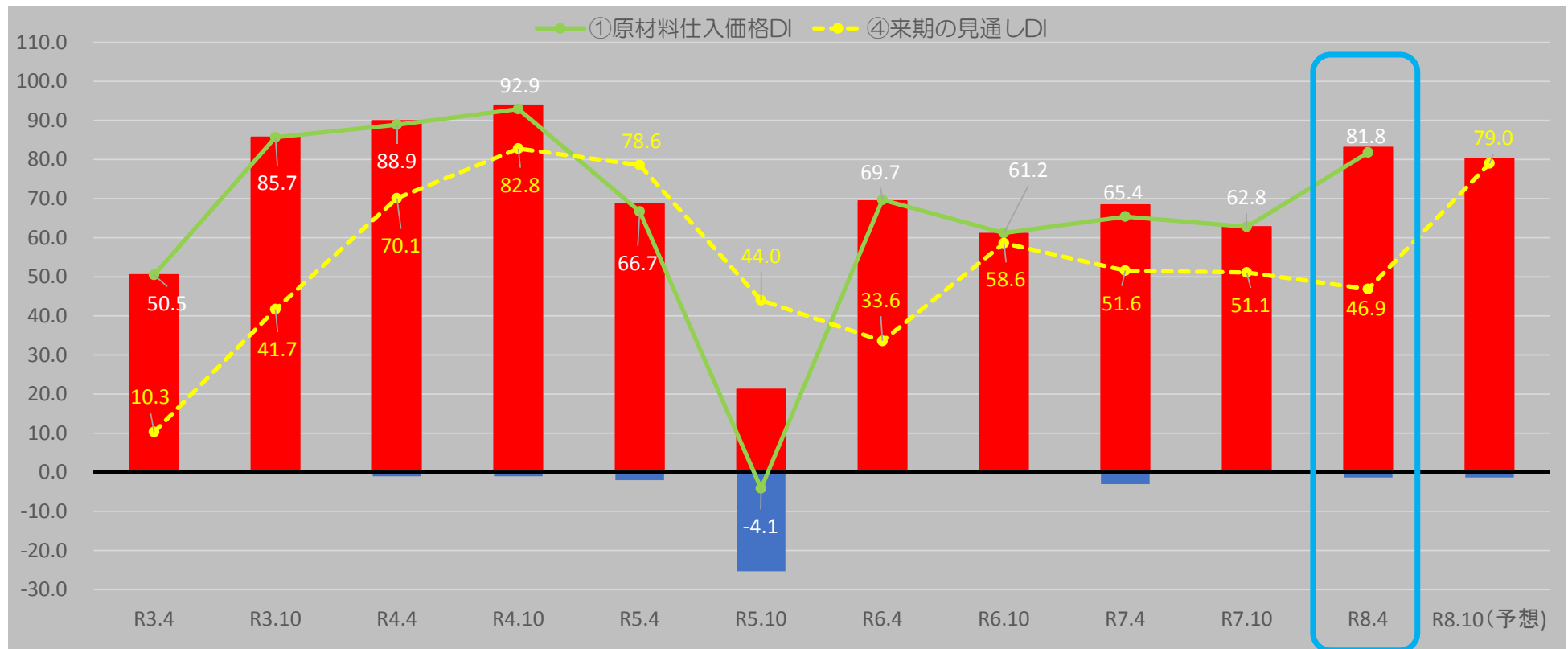
前期と比べたDIは前期の10.6ポイントより12.4ポイント改善し、23.0ポイントとなりました。  
 また、来期の見通しDIは前期の▲2.1ポイントより7.4ポイント改善し、5.3ポイントとなりました。

#### ④ 操業率DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



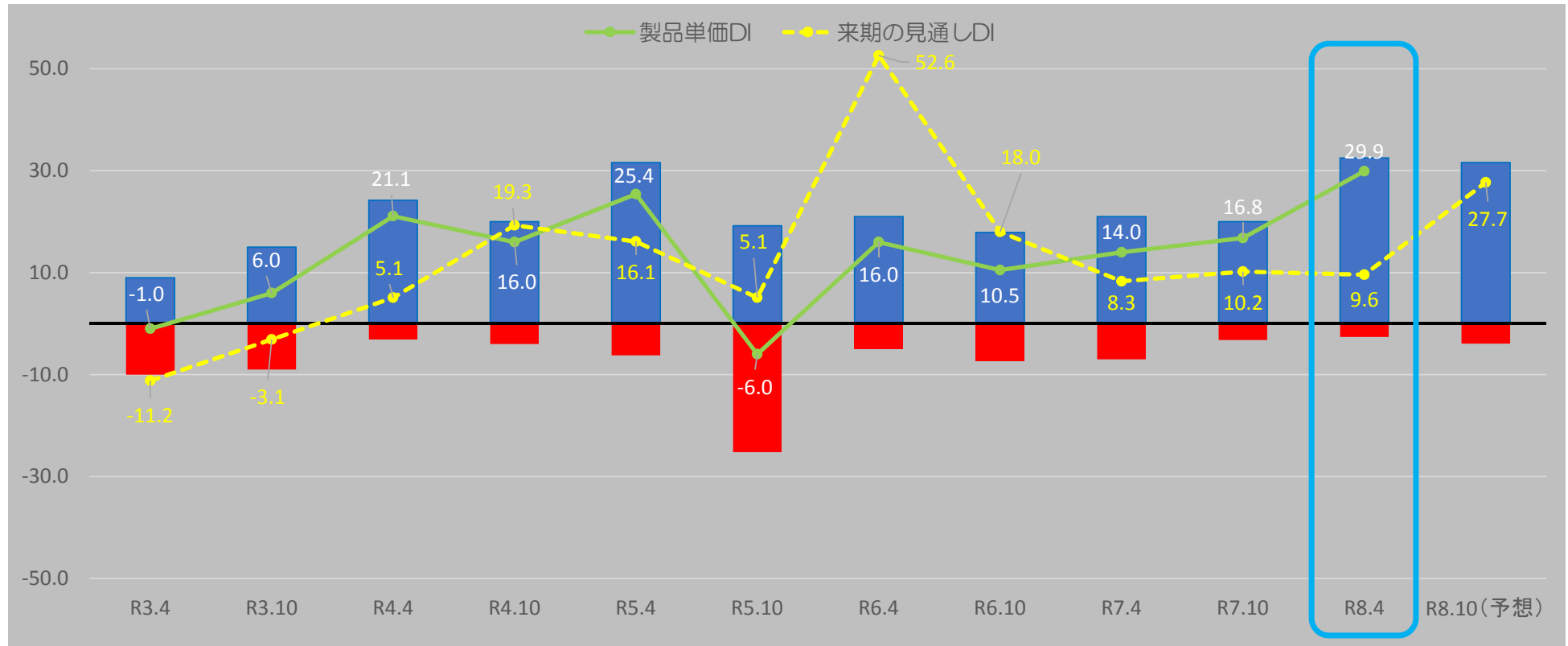
前期と比べたDIは、前期の7.3ポイントより5.8ポイント上昇し、13.1ポイントとなりました。  
 また、来期の見通しDIは、前期の▲1.0ポイントより9.0ポイント上昇し、8.0ポイントとなりました。

### ⑤原材料仕入価格DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



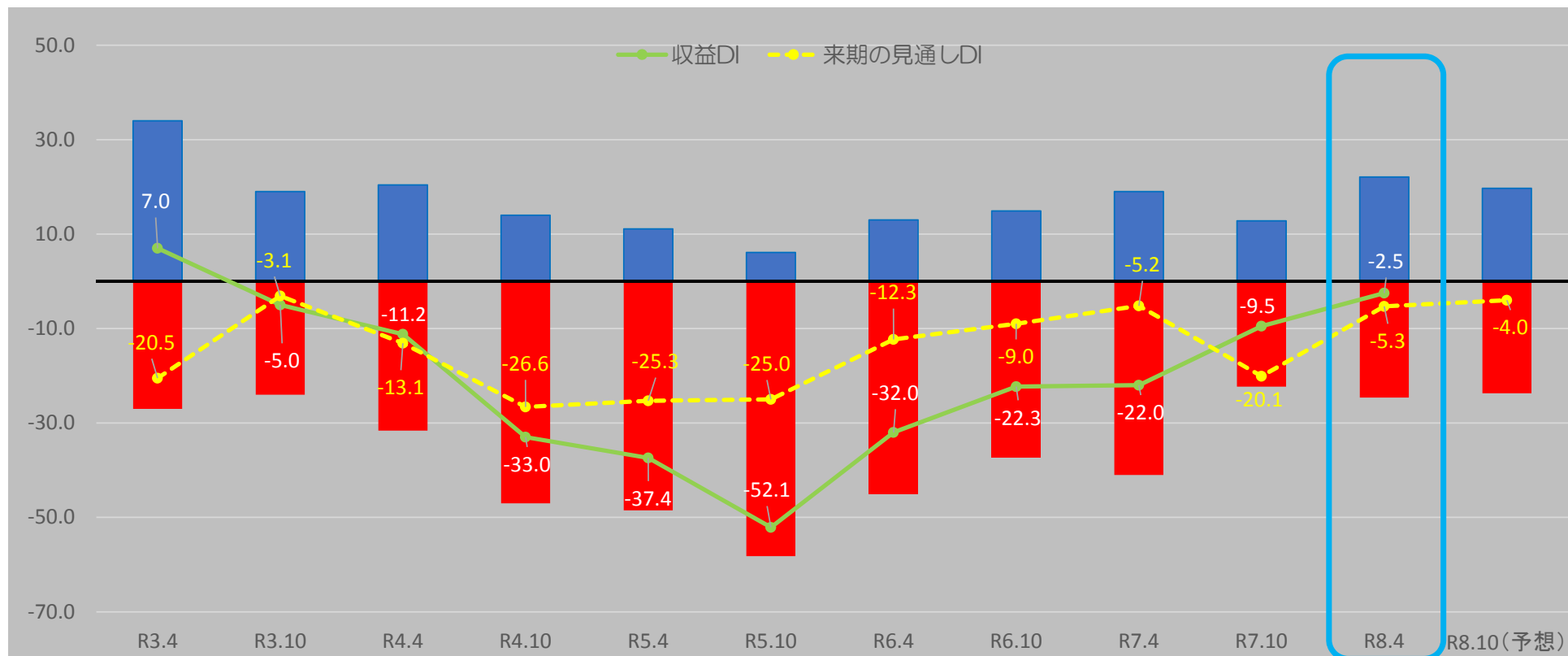
前期と比べたDIは、前期の62.8ポイントより19.0ポイント上昇し、81.8ポイントとなりました。

## ⑥製品単価DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



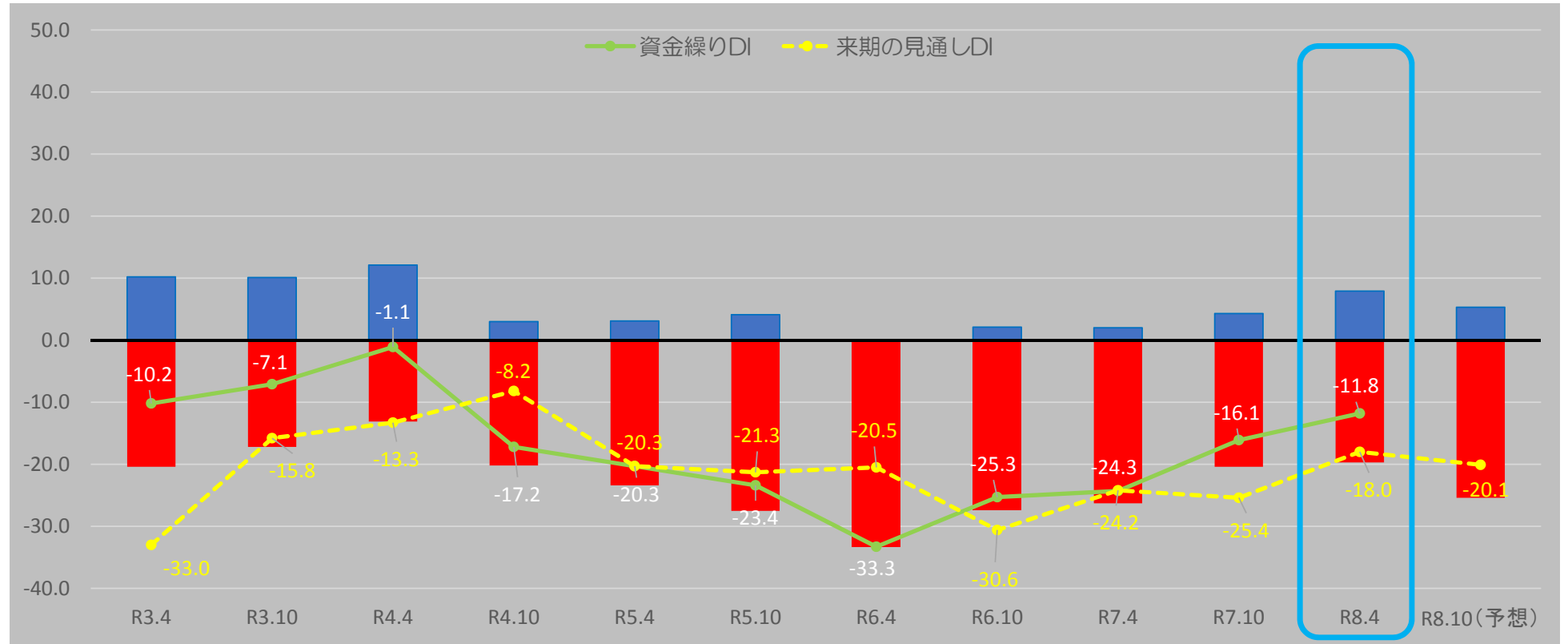
前期と比べたDIは、前期の16.8ポイントより13.1ポイント上昇し、29.9ポイントとなりました。  
また、来期の見通しDIは、前期の9.6ポイントより18.1ポイント上昇し、27.7ポイントとなりました。

### ⑦収益DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



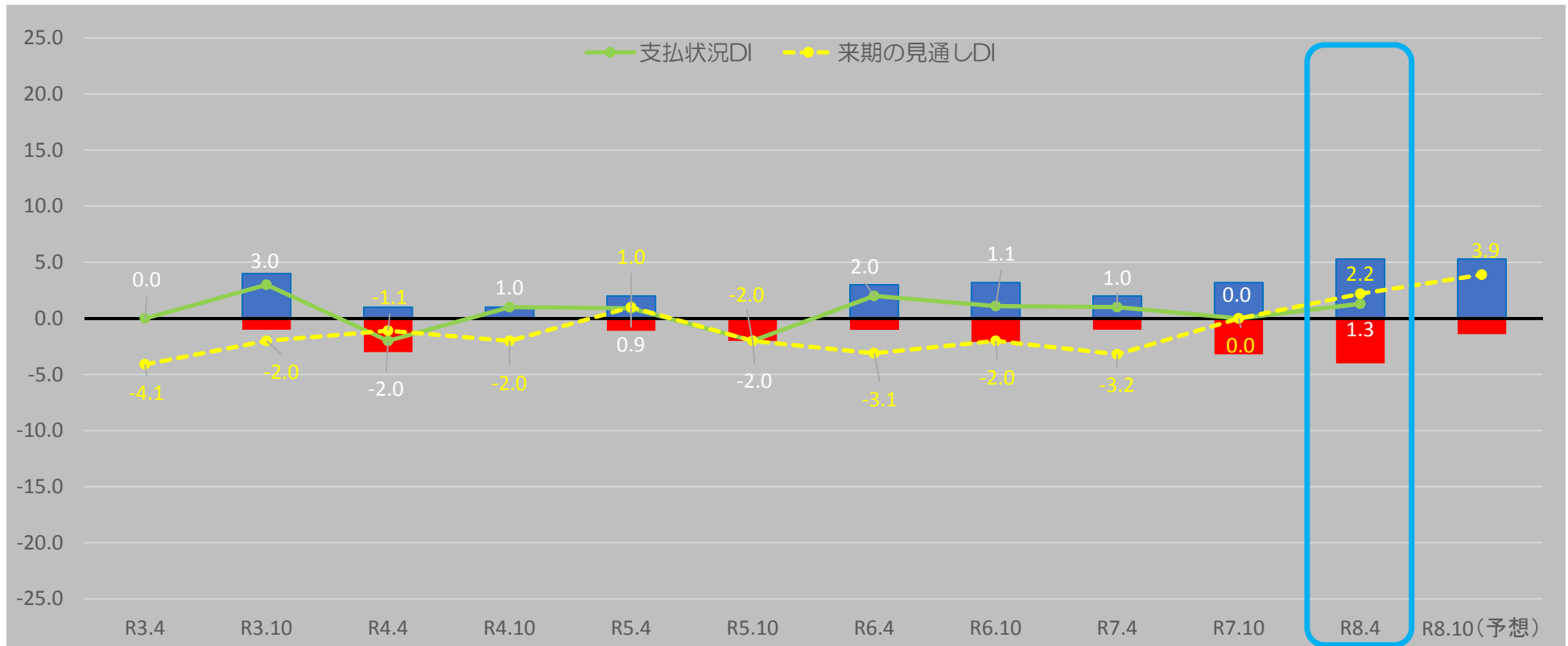
前期と比べたDIは前期の▲9.5ポイントより7.0ポイント改善し、▲2.5ポイントとなりました。  
 また、来期の見通しDIは前期の▲5.3ポイントより1.3ポイント改善し、▲4.0ポイントとなりました。

### ⑧資金繰りDI【前期(6ヶ月前)に比べて】



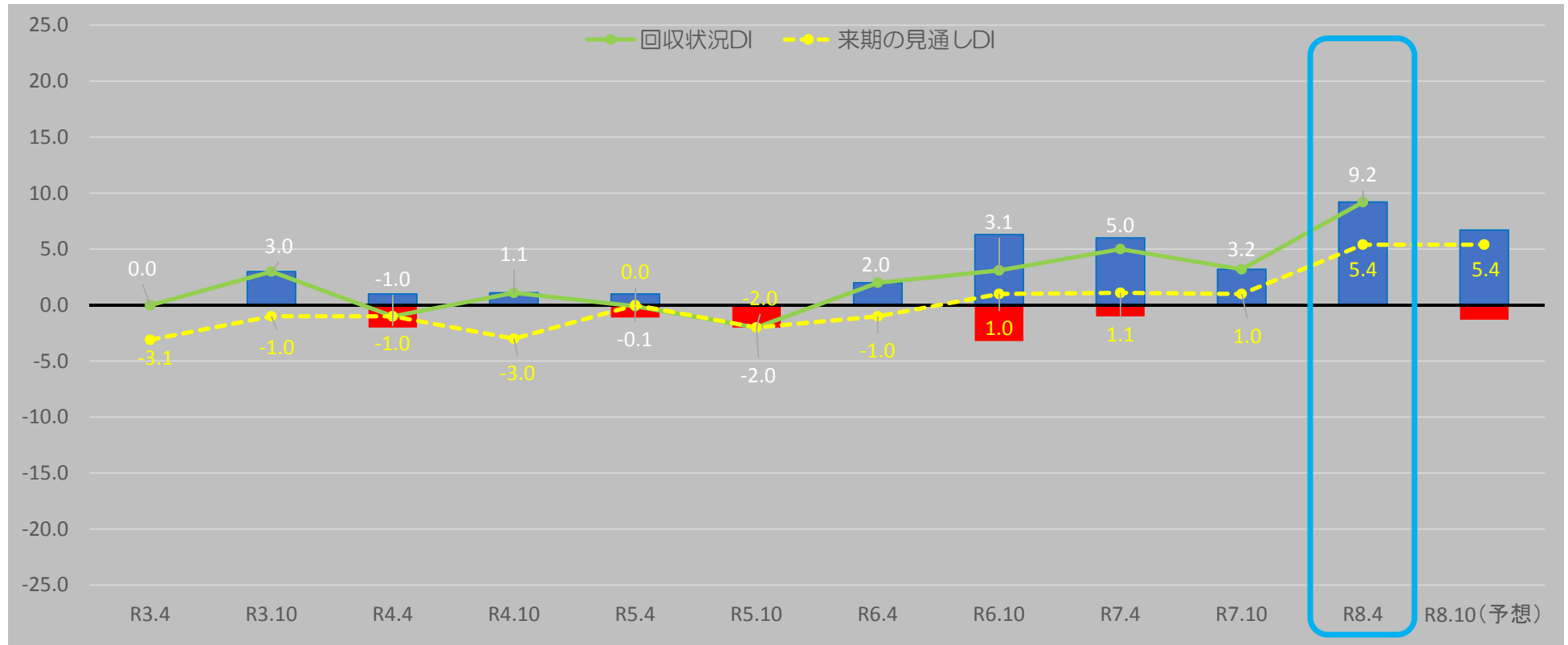
前期と比べたDIは、前期の▲16.1ポイントより4.3ポイント改善し、▲11.8ポイントとなりました。  
 また、来期の見通しDIは、前期の▲18.0ポイントより▲2.1ポイント悪化し、▲20.1ポイントとなりました。

### ⑨支払状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比べたDIは、前期の0.0ポイントより1.3ポイント上昇し、1.3ポイントとなりました。  
 また、来期の見通しDIは、前期の2.2ポイントより1.7ポイント上昇し、3.9ポイントとなりました。

⑩回収状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比べたDIは、前期の 3. 2ポイントより6. 0ポイント上昇し、9. 2ポイントとなりました。  
また、来期の見通しDIは、前期と同様、5. 4ポイントとなりました。

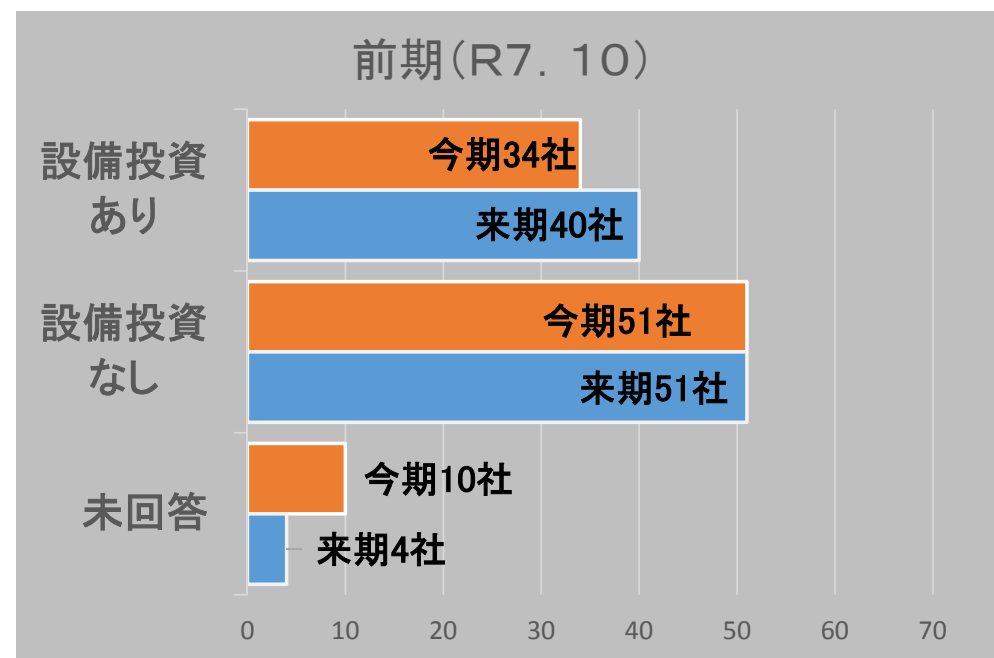
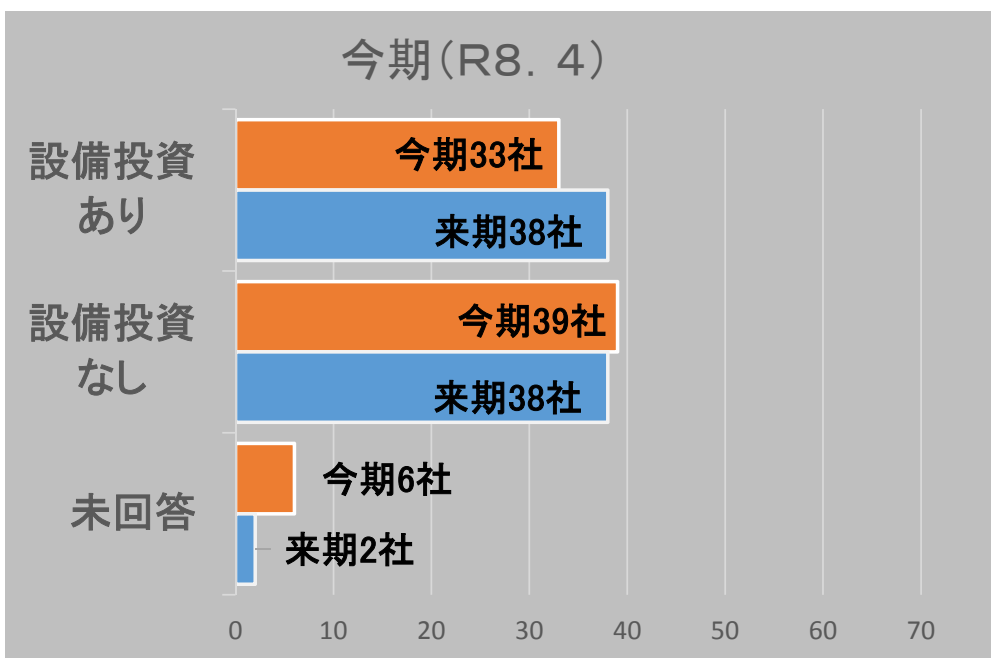
⑪ 今期の業種別業況DI

	精密	機械	電気	計量	表面処理	鑄造
前期に比して	4.0	30.4	36.4	0.1	20.0	▲33.3
前年同期に比して	16.7	34.7	45.6	33.3	30.0	▲33.3

## ⑫設備投資について

調査企業数: 100社(回答78社)

・設備投資の状況について



設備投資を行っている(計画している)と回答した企業が今期33社で、前期34社とほぼ同数となりました。来期に設備投資を行う予定の企業は38社で、前期40社とこちらもほぼ同数となっています。

⑬中東情勢の影響について

調査企業数:100社(回答78社)

	原材料 高騰	原材料 調達	受注	資金繰り	設備投資	電気料金	輸送コスト
現在							
影響あり	62社	50社	26社	20社	12社	30社	36社
影響なし	15社	27社	48社	55社	64社	44社	39社
未回答	1社	1社	4社	3社	2社	4社	3社
今後							
懸念あり	70社	64社	48社	34社	26社	52社	58社
懸念なし	4社	10社	24社	38社	47社	18社	14社
未回答	4社	4社	6社	6社	5社	8社	6社

- ・現時点で原材料の高騰や調達が最も大きな影響を受けており、今後も最大の懸念事項となっています。
- ・特に電気料金や輸送コストに関して、現在の影響以上に将来への懸念が顕著に増加しており、コスト増に対する強い警戒感が伺える結果となっています。
- ・現状では影響が比較的少ない受注、資金繰り、設備投資といった項目においても、今後の懸念が増加傾向にあり、企業活動全体にわたる先行き不透明感やリスク認識が高まっている状況が伺えます。

⑭今後力を入れた取り組み(複数回答可)

調査企業数:100社(回答78社)

項目	回答数	順位	項目	回答数	順位
機械やシステム導入による 自動化・省人化・省力化	40	1①	新技術・新製品等の開発	22	6⑥
社内のデジタル化の推進	36	2⑤	販路開拓 (展示会への出展、市場調査など)	16	7④
熟練技能者の技術承継(標準化など)	30	3②	事業承継やM&A	13	8⑨
省エネ化に寄与する設備導入・更新等	25	4⑦	工場の新設・増設	10	9⑧
後継者の育成	25	5③	その他	3	10⑩

※順位内の○内は前年同期調査時の順位

- ・1位の「機械やシステム導入による自動化・省人化」は前回に引き続き回答数が最も多く、「社内のデジタル化の推進」は前回5位から大きく順位を上げており、企業が生産性向上と業務効率化を最重要課題と捉えていることが伺えます。
- ・「熟練技能者の技術承継」や「後継者の育成」が前回に引き続き上位を占め、持続的な事業運営に向けた人材確保・育成が重視されています。
- ・前回7位から上位に浮上した「省エネ化に寄与する設備導入・更新等」から企業の環境配慮とコスト削減への意識の高まりが見られます。